

社会的平等とセーフティネット

大沢真理（東京大学社会科学研究所）

1．迷走する日本福祉国家 「失われた10年」のあとで

経済戦略会議提言を「小出しにする」小泉改革（経済財政諮問会議メンバーのコメント）
経済戦略会議提言は「20年遅れのサッチャリズム」（佐和隆光・京都大学教授の評言）
格差・不平等論、セーフティネット論が錯綜するなかで方向感覚を喪失？

2．格差／平等をめぐる90年代の議論

(1) 「公正な格差」論が主流に

経営者団体は90年代半ばに、雇用の“複線化・多様化・流動化”を提唱：

「複線」化は、職能と業績による処遇により上下に格差が拡大することを含意
社会経済生産性本部・生産性研究所の96年の報告：

「画一的で格差の少ないしくみに不公平感を持つ人が増えてきている」
経済戦略会議提言（99年）：

「過度に結果の平等を重視する日本型の社会システムを変革」する必要
経済産業省のビジョン『競争力ある多参画社会』（2000年3月）：

「挑戦者を積極的に評価し、努力を怠る人と価値ある創造をした人との間に、適正な評価に基づく公正な格差を許容する社会である」

(2) 格差拡大、不平等社会化論

橘木俊詔『日本の経済格差』（98年、エコノミスト賞）：

日本の所得分配は1973年以降不平等化、90年前後の所得分配は、アメリカよりは平等だがイギリス、フランス、ドイツなみに不平等、北欧諸国よりも明確に不平等
「公正な格差」論は実証的根拠がない

佐藤俊樹『不平等社会日本』（2000年のベストセラーの1つ）：

管理職・専門職雇用者について男性の40歳時点職業で見ると、本人の「努力」より「生まれ」がものをいう度合いは、近年になって高まった
結果の平等を排すると“がんばる基盤”は吹き飛ぶ

苅谷剛彦のコメント

(3) ジェンダー視点から見ると、

「公正な格差」論...従来の日本社会に、性別や企業規模別の賃金格差など大きな格差がグループ間に存在したことを問わない。暗黙のうちに、男性の（大企業の）内部労働市場のみを、ことさらに無競争の世界として想定

不平等社会化論...ある恵まれた職業（男性の2割強）の父・息子間継承性が反転上昇したことから、「子が親の地位を越えられない」社会の再来を説くのは針小棒大

以上の議論はいずれも社会的セーフティネット論を伴うが、比較社会政策の研究成果を参照せず

3. 日本福祉国家の座標とルート

(1)座標

初期の類型論（エスピン・アンデルセン）

「自由主義的」（米、オーストラリア、カナダ）

「保守主義的」（独、仏）

「社会民主主義的」（北欧）

1980年時点の日本福祉国家は分類困難

「自由主義的」な面：支出の規模がOECD諸国の最低レベル、社会政策が選別主義的で家族支援志向が低く、脱商品化の度合いが低く個人に市場参加を強いる

「保守主義的」な面：社会保険の職域別分立と階層性（勤め先企業規模別の格差など）

ジェンダー視点で見ると座標がはっきりする

「男性稼ぎ主」モデル / 「個人モデル」

「脱家父長制化」指標（武川正吾・東大教授）：

雇用平等のための規制の制度化、税・社会保険料を負担する単位（世帯か個人か）、遺族給付の有無、育児休業などの家族支援の制度化

日本は強固な「男性稼ぎ主」モデルで、脱商品化と脱家父長制化がともに低い

いいかえると「家族だのみ」・「大企業本位」・「男性本位」

それが少子高齢化の要因の1つだった（人口問題審議会の98年答申、『平成10年版厚生白書』を参照）

(2)80 - 90年代のルート

3方向への分岐：新自由主義ルート、スカンジナビア・ルート、「労働削減」ルート

日本の80年代の政策（「日本型福祉社会」政策）は、従来の特徴を強めた

90年代の日本：

男女の就労支援と介護の社会化という一筋のスカンジナビア・ルート

労働の規制緩和の面では新自由主義ルート

不況のもとでリストラと非正規化が進み労働市場の二重構造が強まるという意味の保守主義ルート

これらを混在させながら、総じて「失われた10年」を送った

(3)戦略会議提言の座標

民営化、規制緩和、バウチャーによる選択の自由化、選別主義に立ち、市場の機能を信託して「自己責任」を強調。新自由主義か？

しかし同時に家父長制的な提言も：

「世帯主」の失業にたいして「扶養家族の数に応じて失業給付を拡充」！？

脱商品化と脱家父長制化がともに低いという日本福祉国家の従来座標を変えない

個人の選択の自由や自己責任を謳う答申が、個人モデルの要素を欠くのみならず、露骨に家父長制的な提言を含むというのは、真に驚くべきこと

4. 問われる小泉改革

競争や選択を強調しつつ男女共同参画社会の実現や「働く女性にやさしい社会」も謳うが、一貫性に欠ける。労働の規制緩和や社会保障改革のジェンダーへの含意に鈍感

社会政策にジェンダーの視点を貫かないままでは、不況と不安の悪循環が深まる恐れ